

令和6年度 学校教育充実計画

播磨町立播磨小学校

1 学校教育目標 【校訓】「知・徳・体の調和のとれた児童の育成」

＜教育目標＞ 「自律・協働・みんなの笑顔のために」
～地域とともにある播磨小学校をめざして～

これからの予測困難な時代を生き、未来を創造していく子どもたちに、確かな学力・豊かな心・健やかな体などの「生きる力」を重視し、自ら発展的に思考・判断・表現する力を培い、創造的に課題に向き合い、よりよい生活を目指した実践力に富んだ「人間力」豊かな子を育成する。また、自他を尊重し、学んだことを活用して、一人では成しえない課題を克服・達成するために、探求する子を育成する。

これらの教育活動を通して、地域の一員であることを自覚し、地域愛や地域に誇りを感じる子を育成する。

2 めざす子ども像

(1) 意欲的に学び、表現できる子【自律】

- ・学ぶことが楽しいと感じる子
- ・基礎・基本を身につけ、自ら判断し学ぼうとする子
- ・自分の考えや思いを表現できる子

(2) 自他を尊重し、探求する子【協働】

- ・あいさつなどのコミュニケーションをすすんでできる子
- ・自他の良さに気づき、認め合える子
- ・仲間と力を合わせて生きていこうとする子
- ・意見を交流させ、共に学びを探求する子

(3) 社会の一員として、郷土に愛着をもって活動できる子【地域】

- ・命を大切にし、健康・安全・体力向上が意識できる子
- ・規則正しく生活し、社会のきまりを重視できる子
- ・郷土の歴史や文化を尊重し、社会の一員として誇りを感じ行動できる子



3 本年度の重点目標(学力向上&研究推進)

- (1) 基礎・基本の定着を図り、自ら考え表現する力を育成する。
- (2) 言語に対する関心や理解を深め、言語能力を育成する。
- (3) 自他を尊重できる心を育むとともに、自ら考え判断し決定したことを行動できる力を重視し、仲間とともに学びを探求する力を育成する。
- (4) 社会的、地域的に意味のある課題を仲間と協働しながら課題解決をめざす授業を中心に、実態に応じた授業実践・深める授業づくりの工夫を図り、教職員の指導力向上を図る。
- (5) 対話を重視し児童理解に努め、豊かな心を育む教育の充実を図る。
- (6) 子どもたち一人ひとりに応じた支援を行い、家庭・医療・福祉・行政等との連携を図りながら、切れ目のない支援・特別支援教育の充実を推進する。
- (7) 地域とともにある学校づくりを推進し、地域に信頼される学校づくりをめざす。
- (8) 勤務時間の適正化による、ゆとりある教育環境を整備する。

めざす教師像※共通理解

- (1) 子どもに向き合い教育者としての使命感、子どもの成長・発達について深い理解と教育的愛情をもって指導にあたる教師。
- (2) 子どもたちの学力や興味関心を的確にとらえ、めあて達成に向けた計画的・創造的な授業を実践できる教師。
- (3) 子どもの悩みや保護者、地域の相談に誠意をもって対応する教師。
- (4) 教育的課題にチーム(学年団等)として迅速に、また多角的な視点で対応し、認め合い、支え合う教職員集団。

5 達成のための取組

(1) 基礎・基本の定着を図り、自ら考え表現する力を育成する。

- ・朝の学習タイムを効果的に活用し、基礎的な力の定着を図る。
- ・音読指導の充実のため、「朝の音読タイム」の時間を設定し、発声練習を学校全体で取り組む。
- ・学力向上の視点から、算数科の授業づくりを見直し、子どもたちの学ぶ意欲向上を図る。
- ・「教えるべきこと・考えさせること」をしっかりと見極め、課題解決のプロセスを重視した授業展開を図る。
- ・学習の振り返りを大切にし、学んだこと、考えたことを表現できる場を設定する。
- ・家庭学習の充実を図るため、「家庭教育のすすめ」を活用して啓発に努める。(宿題の在り方)

(2) 言語に対する関心や理解を深め、言語能力を育成する。

- ・授業の中で、書いたり話したりする表現活動の場を設定し、互いに自分の意見を表現したり、伝え合ったりする学習活動を充実させる。
- ・図書室活用の工夫により、読書の習慣化を図り、本を読むことの楽しさを味わわせながら、語彙力の充実と本に集中する姿勢を培う。
- ・教員による「絵本読み聞かせタイム」(仮)などにおいて、魅力ある読書環境を整備し、子どもたちが感想を書く機会を設定する。

(3) 自分も友だちも尊重できる心を育むとともに、自ら考え判断し決定・行動する力を重視し、仲間と共に学びを探求する力を育成する。

- ・自分を大切にするとともに、友だちを自分と同じように尊重できる心を育む。
- ・自尊感情を高め、必要とされる自分を意識し、社会の中で活躍しようとする態度を育てる。
- ・自分や友だちとの「対話」による道徳科の授業を推進し、自分の生き方についての考えを深める。
- ・「ことばの力」を高める活動を取り入れ、伝え合い学び合える場の充実を図る。
- ・多様な価値観を理解し、多様性を認め合える教育を推進する。
- ・ユニバーサルデザインの視点をとり入れ、わかりやすく落ち着いた教室環境を整える。
- ・ICT機器、デジタルコンテンツを活用した「わかる授業」づくりを行うとともにプログラミング学習を通して、論理的な思考を培う。
- ・総合的な学習の時間を中心に、教科横断的にすすめることで、探求する力を育成する。
- ・学ぶ力の基礎となる、健康維持と体力向上を図る。(体力テストを分析・課題づくり)

(4) 社会的、地域的に意味のある課題を仲間と協働しながら課題解決をめざす授業を中心に、実態に応じた授業実践・深める授業づくりの工夫を図り、教職員の指導力の向上を図る。

- ・教職員研修を充実し、指導力と授業力を高める。
- ・目標達成に向けた取組の具体
 - ※1時間の授業の流れを確立する。
 - ※興味関心のある学習課題を提示し、一様な成果を求める学習から脱却する。
 - ※教職員の共通理解の元、教科の特性を考えた単元構成を工夫する。
 - ※授業公開等、教職員の学び合いの場を充実させ、相互に研究を深め、授業力の向上を図る。
 - ※子どもたちの実態（アンケート等）を把握し、授業研究を推進する。

(5) 児童理解に努め、豊かな心を育む教育の充実を図る。

- ・対話を中心に全ての児童が安心して通うことのできる学校・学級づくりをめざす。
- ・子どもたちの内面理解に努め、カウンセリングマインドを持って接し、いじめ・問題行動等の解消に向けて、全職員でチームとして積極的に取り組む。
- ・人権と生命を大切にする心の教育の充実を図る。
- ・教育委員会を含む行政・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーや福祉・医療関係機関等と連携し、心に問題を抱える子や親への適切な対応に努める。

(6) 子どもたち一人ひとりに応じた支援を行い、家庭・医療・福祉・行政等との連携を図りながら、切れ目のない支援・特別支援教育の充実を推進する。

- ・一人ひとりの実態を把握し、教育的ニーズに応じた適切な支援を行う。
- ・インクルーシブ教育システムを構築し、障害の有無に関わらず、ともに学べる教育環境づくりに取り組む。
- ・家庭・医療・福祉等との連携を図り、切れ目のない支援体制を充実する。
- ・個別の指導計画及び個別の教育支援計画を活用するとともに、校内委員会等で見直しなどにより、全教職員の共通理解のもと、チーム（学年団）として児童にかかわる。
- ・不登校やいじめ等の問題解決に関連機関と連携を密にし、協力体制を構築する。

(7) 地域とともにある学校づくりを推進し、地域に信頼される学校づくりをめざす。

- ・日常の保護者とのコミュニケーションを通して、保護者と信頼関係を築く。
- ・定期的に学校の教育活動の公開と情報の発信に務める。今年度も、感染拡大予防対策を講じた上で、学校だより・学年だより・スクリレ・ホームページ等により教育活動を公開する。社会状況に応じて保護者や地域の方々がより多く参加できる場を設定する。
- ・保護者が安心して児童を送り出すことのできる学校、地域に愛される学校づくりをめざす。
- ・家庭・地域・関係機関との連携を強化し、組織としての防災・防犯等の危機管理能力の向上に努める。

(8) 勤務時間の適正化による、ゆとりある教育環境を整備する。

- ・スクリレの活用や事務内容を精選し、教職員が校務の業務を分担し、業務全体の見直しを図る。
- ・教職員の勤務時間の適正化を促進し、ゆとりある教育環境を整備し、子どもたちと向き合う時間を確保する。
- ・教職員が、自ら勤務時間の適正化を意識し、勤務時間削減への意識を高く持つ職場づくりをめざす。
- ・定時退勤、年休の申請等、働きやすい職場環境の整備により、教職員の健康維持増進を図る。